

やさしく
かしこく
たくましく

感性を高める教育



挫折や失敗から身に付く人間力

校長 迫田 智志

鹿児島市の書店でエッセイ集を読んでいたら次の文が私の心に留まりました。

キズのあるリンゴを売っているおばあさんがいる。「キズのあるリンゴの方が甘いんですよ」と尋ねると、そのおばあさんは、「都会の人のようだけど、よくご存じですね・・・」という意味のことを方言で返した。私は、とてもうれしくなり、ついもちきれないほど買ってしまった。

キズのついたリンゴ。そのリンゴは、なんとかそのキズをかばおうとして、力を出すのであろう。無キズのリンゴより美味くなるのである。キズのないリンゴだっとなまけているわけではないが、キズのあるリンゴのひたむきな努力には及ばないのか・・・



成長途中のリンゴの表面に傷ができると、傷口から水分が蒸発して干からびやすくなり、一時的に成長が妨げられてしまいます。それをかばってリンゴ自体がエチレンというガスを発生させ、早く熟して種子を残そうと頑張り、糖分を余計に出すのだそうです。自分の傷を補おうと、リンゴ自体がひたむきに努力した結果として、無傷のリンゴ以上の“うま味”をつくりだすのだそうです。

人はどうでしょう。失敗や挫折を気にしてばかりいると、気が滅入ってしまい先行きが不安になったりすることはよくあります。しかし、いろいろな経験を重ねていくうちに内なる力が付き、その力はいつか人間の姿として表に現れるのです。失敗や挫折は誰しもあることです。人間は、過去の失敗や挫折を補い取り戻す努力をすることで、人間的な“うま味”を作り出しているような気がします。

幼い頃、何度も転び膝を擦りむき、初めて自転車に乗れるようになったように、人は幼いとき若いときに転ばないと、人間としての真の成長にたどり着けないのかもしれませんが。いくつもの挫折を味わい、傷を負いながらも、めげず、へこたれず、努力を続け、苦難を乗り越えて、真の成長をとげた人は、周囲の人々に感動や勇気を与える存在になっていくことが多々あります。実は、傷のあるリンゴや挫折を味わった人生ほど“うま味”が増すのかもしれませんが。

熟成を続けている末吉小の子どもたちからも、きっと“人間のうま味”を醸しだそうとしている音が聞こえてくるはずです。その時、子どもたちの弱音や愚痴も出てくるでしょう。しかし、子どもたちには、挫折や苦難、失敗や心の傷に耐え、それを治す力つまり忍耐力が身に付こうとしているのです。最後まであきらめずがんばりぬく力、つまり「意思」という目に見えない力を、親や教師はじっと信じて、見守ることが大切です。そして、ここぞというところで、認め・褒め・励ましてあげてください。子どもたちが、将来“甘みを醸すリンゴのような本物の大人”になることを信じて、末吉小学校の教育活動を、保護者や地域の方々の力を借りながら、これからも充実させていきます。